【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成17年3月3日(2005.3.3)

【公開番号】特開2004-143900(P2004-143900A)
【公開日】平成16年5月20日(2004.5.20)
【年通号数】公開・登録公報2004-019
【出願番号】特願2002-344641(P2002-344641)
【国際特許分類第７版】
　Ｅ０３Ｃ　1/28
　Ｂ０９Ｂ　3/00
　Ｂ６５Ｆ　1/00
　Ｅ０３Ｃ　1/266
【ＦＩ】
　Ｅ０３Ｃ　1/28　ＺＡＢＢ
　Ｂ６５Ｆ　1/00　１０２Ｃ
　Ｅ０３Ｃ　1/266　Ａ
　Ｅ０３Ｃ　1/266　Ｚ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　Ｄ
　Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成16年3月24日(2004.3.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
排水トラップの下部に排水通管と排気通管を形成した径違い継手管を接続し、前記排気通管の一方に排気ファンを取付けて排気管で連結接続し、前記排気ファンの一方に接続した排気管の先端を吸気口としてこれらを一体化構造手段とし、前記吸気口を本体と組み合せて前記排気ファンによって排気臭を排出管に排出させることを特徴とする流し台の排水トラップに接続する排気臭の排出装置。
【請求項２】
排水トラップの下部に排水通管と排気通管を形成した径違い継手菅を接続し、前記排気通管の一方に排気管で排気ファンに連結接続して生ゴミ処理機の本体と連結し、前記生ゴミ処理機は流し台シンクと隣接する天板の下部方向の収納庫に着脱用内容器を内蔵した固定外容器を垂下させて取付け、前記着脱用内容器の内部に撹拌用羽根を設けて、前記各容器の上面に蓋を装着したこれらの生ゴミ処理機に前記排気ファンを介して排出管に排気臭を排出させることを特徴とする流し台に設置する生ゴミ処理機。
【請求項３】
排気通管の一方に排水逆流止め弁を取付けた請求項１又は２記載の流し台の排水トラップに接続する排気臭の排出装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】

【０００２】
【従来の技術】
従来の排気臭の排出方法は、生ゴミ処理機を流し台のシンク下方部の収納庫に装着し、それから発生する臭気を壁や床に孔を開けて排気管を通し、室外に排出されていた。
（例えば特許文献１参照）
また、シンクにディスポーザーを取付けて生ゴミを粉砕し、固液分離装置で排水と生ゴミを分離して排水は排水管に流し、生ゴミは別の処理タンクに回収して乾燥、バイオ分解処理し、発生する臭気を排水管に排出したものもある。
（例えば特許文献２参照）
それに排水管にＴ型分岐菅を接続して臭気を排水管に排出するものもあった。
（例えば特許文献３参照）
そして、厨芥処理装置として、シンクの底部にゴミ投入口を設け、その下方部の流し台収納庫の内部に外容器に内蔵された厨芥収納内容器に加熱乾燥処理装置として、引き出し式により収納されているものもある。
（例えば特許文献４参照）
【特許文献１】特開２０００－２１０１４４号公報
【特許文献２】特開平１１－１０４６０９号公報
【特許文献３】特開平７－２２３７０３号公報
【特許文献４】特開平８－５２３８号公報